

平成26年度事業計画

1. 基本方針（理事長：飯島直樹）

新年度の定時総会において、新しい理事長が選任される。5期10年にわたる理事長就任中は会員諸氏から多大なご協力をいただいた。改めて感謝申し上げたい。本部事業の運営は基本的に継続されるが、新理事長のあらたな方向付けのもとに、今まで以上の新たな展開をはかりたい。年鑑「日本の空間デザイン」の更なる改訂も予定されており、JCD デザインアワードは次のステップを具体的に進める。日本各地に拡大しつつある SODA 事業も JCD の核事業として再定義されるだろう。それらをつなぎとめながら伝達すべき事業もコミュニケーション委員会、国際委員会で再編したい。様々な場面で再=Re が浮上する平成26年度でありたい。

2. 主要事業計画の概要

(1) デザイン賞委員会（委員長：岩佐達雄）

（JCD デザインアワード事業）

経費等の節約も考慮しながらこれからも運営を心がけます。

今年度は会員の応募増加やあるいは支部長会議にかんがみ理事会に囚った上で、支部単位の顕彰なども視野に入れるなどについての検討、海外からの応募の増加方法についての検討を重点として委員会の議題としていくつもりである。なお昨年から1次審査のネット審査のソフトを新しくお願いしているが、審査方法に少し工夫を追加したいと考えている。審査員の構成は詳細は応募要綱を参照されたし。

なお年鑑刊行委員会から他の協会から応募対象作品の竣工日の統一を要望されているのでこれも早々に結論を出す予定である。

よってスケジュールは少し調整が必要となる。予定ではあるが、5月に第1次審査、6月に第2次の公開審査を東京デザインセンターで行うこととしている。

(2) コミュニケーション委員会（委員長：品川正之）

1. 連続デザインシンポジウム

（デザインシンポジウム事業）

平成25年度の連続デザインシンポジウムは3委員会合同の East Gathering Tokyo の一環として開催したので、コミュニケーション委員会独自の事業目標は1年持ち越しとなった。引き続き200人規模のシンポジウム開催を目指し、学生動員増について、また大阪開催あるいは名古屋開催についても検討したい。内容についてはインテリアデザイン分野にとどまらず、広汎にクリエイティブな領域を対象にテーマを求めていく。企画・動員ともに新たな物差しで知恵を絞り事業の継続を図る。

2. 機関紙 SHOKANKYO

紙面刷新、年2回発刊を目標に進めていく。

(3) 国際委員会（委員長：武石正宣）

前年度はEG（イーストギャザリング）を日本で開催した事が、当委員会の国際交流の大きな収穫でありました。

今回のEGは、JCDでも初めての共催ではなく単独開催になり、予算的にもコンパクトな物にしな
がら、内容の濃いものが出来たと思います。

また今回は、多方面の団体や大学などの連携を取りながら、六本木ミッドタウンでの一週間のEG
とJCDの展示やセミナー。工学院大学の教室を借りながらのシンポジウム、ウエルカムパーティ
ーや親睦会、JCDデザイン賞の授賞式といった今まで別に行われてきた事も合わせて全体の進行
をスムーズに行えたのも、国際委員会に出席していただいた委員会の人達のみならず、JCDの有
志の方々の力添えの賜物だと感じました。

次回、今年度はソウルになる予定でしたが、韓国のKOSIDの役員入れ替えや、国際情勢から、ど
うなるかは予断を許さない状況になっています。

他国の団体の状況を見ながら、EGをどうつなげて行くのかが今年の課題だと考えています。

(4) 財務委員会（委員長：太細 通）

26年度予算は、事業活動収入3632万円、事業活動支出3275万円にて、357万円の黒字収支計画
となります。

内訳としては、本部201万円の黒字、支部合計156万円の黒字となります。

この通りの計画で行きますと長年累損続きだった本部の累損が0に近づきます。

また、期末における留保金は、本部は若干のマイナス5万円となりますが、支部合計で約913万円
となります。

事業活動収入において、会費収入は今年度末の会員数を予測し、事業収入は総会収入が関東開催
ということで収入減となり、全体で昨年度予算より124万円程抑えた予算としています。

事業活動支出においては、大きいところで総会費支出が175万円減、人件費50万円減、設計奨
励費47万円減と抑えられますが、SODA34万円増、国際交流費30万円増、研究会費29万円増
となり、全体で昨年度予算より220万円減としています。

6年前の選挙名簿と比較すると現在会員数55名減、また賛助会員も5年前から18社減という状
況です。年々会費収入が減ってきています。やはり会員増強を図り、収入を増やさないと大きな
事業は望めません。留保金の活用方法なども考えていく必要があると思います。

(5) 業務委員会（委員長：星 正臣）

近年の業務委員会活動は、以下の3委員会活動に集約されております。

1) Soda 委員会 「JCD の社会貢献事業」として、会員間に認知されてきたと感じております。 出前事業などへの参加メンバーも増えてきています。
会外への **広報**と**収益**の知恵が課題

2) 賛助委員会 正会員との交流はだいぶ図られてきているように感じています。
賛助会員各社にとっては、いかにセールスに繋がるかであろう。
そのツールの一つとしての「 **Product of the year** 」であるが、
現況は、賛助会員社からのノミネート数の低下と正会員からの投票率の低迷の両面攻めで、委員は苦勞しています。

例えば、「商店建築」の記事 (ex,JCD のページ) として掲載される
とか・・・これも、**広報**。 皆さんからの提言もいただきながら、
賛助各社にとっての J C D の魅力を高めたい。

3) 功勞者選考委員会 今年度は、主担業務に加えて、

- ①評議員会の開催
- ②「会友」制度の検討
- ③叙勲活動の推進 を図りたい。

1. Soda 委員会 (委員長：新藤 力)

(Soda 事業)

①ワークショップ

- (1) 中野区立平和の森小学校ワークショップ 10 月
- (2) 杉並区立和田小学校ワークショップ 11 月
- (3) 相模原市立鹿島台小学校
- (4) 杉並区立浜田山小学校
- (5) 神奈川県内新規校
- (6) 東京都内新規校

*その他支部開催ワークショップの支援

②タイアップセミナー

- (1)六行会チルドレンフェスティバル/「(仮)デザイン屋台」 7 月
- (2)静岡市子どもクリエイティブタウン「ま・あ・る」

③学会活動

日本建築学会「子ども教育支援建築会議」にて Soda 活動発表 6 月

2.賛助委員会 (委員長：久米任弘)

今年度も引き続き正会員と賛助会員のコミュニケーションを深める施策を立案、推進いたします。

具体的活動としては

①各支部単位での相互コミュニケーション実施のためのサポート

最新情報での各賛助会員の本部・各支部の連絡者名簿のメンテナンスを随時実施します。

②「JCD Product of the year 2015」の実施。

9年度目の施策として更に充実をめざし、認知度 UP を図ります。

過去8回実施して課題となった

○正会員の投票率の向上

○新しい賛助会員の積極参加

を図るために本年度の課題も踏まえ、各支部長様からもアイデアを頂きながら推進たく考えます。

③賛助会員拡大の為の諸方策の立案と実施サポート

平成17年度に実施しました正会員へのアンケート（よく指定・採用される商品の企業名）結果をベースに勧誘の働きかけを継続しますが、これだけでは会員拡大の効果として不十分なことは否めません。せっきくの貴重なデータですので引き続き勧誘のサポートを委員会としてもしたいと考えますが、入会実績からも正会員様からの日頃の仕事の繋がりでの勧誘、情報発信のお力添えが大きく効果を上げておりますので積極的にお願いしたく考えます。

これらの計画を更に拡大・充実するために、各支部賛助委員会を活性化していただき、支部単位での更なる交流を深めていただきたいと思います。

また、これらの活動を通じ、正会員・賛助会員の双方のメリットを明確化さらに拡充し、新規正会員・賛助会員の拡大につなげていきたと考えます。

正会員・賛助会員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

3. 功労者選考委員会（委員長：芝田良治）

当該委員会は、平成26（2014）年度委員会主担業務として、一般社団法人日本商環境デザイン協会（以下JCDと略）特別功労賞表彰規定その他、JCD定款・定款施行細則に則り、正会員からの推薦を基に、平成27（2015）年度JCD特別功労賞・支部功労賞表彰候補者、名誉会員推挙候補者、評議員・顧問・参与各役職候補者等の募集・資格審査・貢献度確認・候補者推挙等を推進し、平成26（2014）年度末理事会において、理事長に対し前記候補者推挙/委員会答申を行う。

第27期（平成26-27年度）委員構成は、前記JCD表彰規程に則り、副理事長1名、専務理事を含む理事・評議員並びに監事等役員の中から7名前後にて編成し、理事長の委嘱を受け、任期2年間、之を努める。当期任務期間中の欠員に関しては、補充を考慮する。

支部長会議を含め、全国各支部イベント開催機会へ積極的に参加し、各支部における候補者並びに候補者予備軍各位の活動実態把握、実績・貢献度内容の確認、等の詳細情報の収集に努め、前記主担業務推進時における参考評価資料として活用し、誤謬無き、適正な候補者人選に努める。

(6) 支部長会議（議長：加藤博正）

年 1 回全国の支部長を一同に集め、理事会で討議しきれなかった議題を各支部の立場から論議し、その結果を全国支部長会議として理事会に提案する。

(7) 支部事業

北海道支部（支部長：長谷川 演）

今年度の活動方針

「 JCD という横のつながりを生かし、その活動を通して楽しめる事業を行う 」

活動内容

2014年 4月 16日（水）	北海道支部総会	・活動計画、予算案承認、懇親会 等
2014年 5月 7日（水）	5月委員長会議	・・支部総会の報告 等
2014年 6月 4日（水）	6月委員長会議	・・デザインキャンプの計画 等
2014年 7月 2日（水）	7月委員長会議	・・デザインキャンプの準備 等
2014年 8月 6日（水）	8月委員長会議	・・デザインキャンプの準備、SDW 計画 等
2014年 8月 30・31日（土日）	デザインキャンプ	
2014年 9月 3日（水）	9月委員長会議	・・デザインキャンプの報告、SDW の準備 等
2014年 10月 1日（水）	10月委員長会議	・・SDW の準備、Xmas 計画 等
2014年 10月下旬	SAPPORO DESIGN WEEK	
2014年 11月 5日（水）	11月委員長会議	・・ SDW の報告、soda 準備、Xmas 準備 等
2014年 11月下旬～12月中旬	soda 桑園小学校	・・・
2014年 12月 3日（水）	12月委員長会議	・・soda 報告、Xmas 準備 等
2014年 12月 中旬	Design Xmas Party	
2015年 1月 14日（水）	1月委員長会議	・・・ Xmas パーティ報告、鍋塾計画 等
2015年 2月 4日（水）	2月委員長会議	・・・ 鍋塾準備、収支状況の報告、支部総会計画 等
2015年 3月上旬	鍋塾	
2015年 3月 4日（水）	3月委員長会議	・・・収支状況の報告、予算案作成、総会準備 等
2015年 3月下旬	決算準備	・・・ 本部提出書類作成、総会準備 等

東北支部長（支部長：阿部秀夫）

平成 26 年度の活動方針は、3 年前の震災からの復興に力を注ぐべく、消沈しがちな会員同士の親睦及び情報交換に集中して取り組む必要があり、地区ごとの結束、並びに各地区同士のコミュニケーションを図るべく活動したい。

H26/04/中旬：第一回東北支部役員会議

H26/04/末 ：復興お花見会 開催予定

H26/07/中旬：東北支部通常総会を青森地区にて開催予定

- ・地区長会議
- ・通常総会
- ・賛助会企業アピール
- ・講師によるディスカッション
- ・震災後の復興状況確認
- ・懇親会

H26/09/中旬：山形地区交流懇親会開催

H26/11/中旬：秋田地区交流懇親会開催

H27/02/中旬：賀詞交換会開催

各地区事業計画

■青森地区

建築士会・建築士事務所協会との合同呑み会を計画しています。

できれば、東北支部からの出席者もお願いしようかと考えています。

時期は今後協議の上確定します。

■岩手地区

今のところありません。

■秋田地区

支部に準じて活動予定。

■宮城地区

震災後の仕事に追われ、協会活動を積極的に行えず、会員の協会へ対する関心が薄れつつあります。昨年は新正会員も1名参加して頂いた事ですので協会活動のエンジンを始動させていきたいと考えております。

■山形地区

前半は仕事に追われており活動は考えておりません。

後半はJCDの会員の山形地区における啓蒙活動を積極的に行いたいと考えております。

地区会員は現在の2名より4名に増やすべく頑張りたいと考えております。

■福島地区

休眠会員の復活と新規会員の開拓、特に若い人材の発掘に努力したいと思います。福島地区に固視せず、宮城・山形の会員の方々、賛助会員の方々、サブスタッフを含め交流できればと思います。結果、互いのクオリティを高めあえればと思います。

関東支部長（支部長：小田秀樹）

*会員の増強と会員のイベント参加を促進する

今期もJCDの会員増強を図る。関東支部の会員が、本部活動や各委員会活動に積極的に、参加いただける様に、各委員会のイベント内容を早めに告知し、関東支部会員・支部賛助会員のコミュニケーションを促進する。

(1) 研究セミナー委員会：高村委員長

- ・トークの毎月1回開催を目標として、セミナーアイテムの情報収集を図る。
- ・関東支部会員及び関東支部賛助会員間のコミュニケーションの活性化も盛り込む。
- ・新規会員の誘致に繋がるようなセミナー企画を推進する。
- ・本部企画との連携と、会員と業界とのコミュニケーションを図り、当協会の認知度を上げて行く。

(2) 支部賛助委員会：品川委員長

- ・委員会は毎月1回開催し、次記載活動目標の推進を図る。
- ・関東支部正会員及び関東支部賛助会員のコミュニケーションの活性化を図る。
- ・関東支部賛助会員の意見の集約と交流を促進する。
- ・昨年同様に全国賛助会員との連携を促進する。
- ・関東支部の他委員会と連携して、関東支部のイベントのサポートに積極的に参加する。

(3) 省エネ CO2 削減委員会：芝田委員長

- ・開催主体・形式に拘らず、当該業界における“省エネ・CO2削減施策”に寄与と思われるセミナー・シンポジウム等の情報を集約し、会員に向け、参加呼びかけを行ない。
- ・“空間デザインにおける省エネ・CO2削減施策”について、先行する“住宅・オフィス”部門の作品を対象に、セミナー・シンポジウム・コンペ等の情報収集に努め、会員宛に情報を発信する。
- ・“店舗・売場における省エネ化実践事例”の情報集約を行ない、会員宛に情報を発信する。

(4) 広報委員会：古川委員長

- ・今期も年間3回の発刊を目標に、関東支部会員及び関東支部賛助会員のコミュニケーションの活性化と新規会員と賛助会員の勧誘を促進する情報を発信し、関東支部の活動がより活発になる様に側面支援をする。

(5) メディア委員会：吉田委員長

- ・活動テーマ「情報の共有化とコミュニケーションの活性化」
積極的にブログの更新（会員の近況）を増やし、普段は顔を合わせる事が少ない、会員同志のコミュニケーションの連鎖を広げる様に努める。

(HP 運営管理)

- ・委員会の予算の範囲で、可能な限り古く成ったページ改訂を行なう。
- ・年間の月例会、イベント、夏&冬のパーティ、ネットワーク紙、ブログ等の更新を円滑にする。
- ・新年度に伴うページ修正やメンテナンスを円滑に行なう

(メールマガジンの配信)

- ・月例会やパーティ情報の配信以外のコンテンツを見直して、会員参加型のマガジンにする為の検討を行う。

(6) 交流委員会：折原委員長

- ・交流委員会を定期的に招集して、関東支部正会員及び賛助会員のコミュニケーションを推進する。
- ・夏/冬のパーティー（予定：7月下旬/11月下旬）の企画及び運営。
- ・会員同士、賛助会員同士、会員と賛助会員の交流を一層深める事で、業界全体の活性化を託す。

(7) 特別委員会：星委員長

- ・今期は JCD の総会が東京で開催される為、関東支部で全面バックアップを行なう
- ・11月位に「関東支部会員及び賛助会員の研修旅行」を企画する
- ・JCD デザイン賞の企画運営のお手伝いを関東支部で行なう。

○説明の途中小田支部長より、(7) 特別委員会の委員長を東野氏から星氏に変更する旨の説明があり、議案書を修正した。

中部支部長（支部長：平井 充）

●活動方針

将来に向けての組織形態、運営方法、活動のあり方、会員獲得方法など、北陸地区、東海地区のすべての見直しを図り、構造改革を行う元年とする

①組織形態の改変

運営組織の改変

担当の改変

②運営方法の検討と改変

各種委員会のあり方の検討と改変

会議開催の要領についての検討と改変

③活動のあり方についての検討と改変

④会員確保についての検討と実施策の考案

●主な活動計画

中部支部の主な事業

<2014年>

6月 中部支部総会

総会、基調講演、懇親交流会

10月～11月「JCD 主催、または他団体と合同の空間デザイン啓蒙のイベント」

・シンポジウム | 交流パーティの2部構成(パーティは JCD 以外の方も招いて交流会としたい)

<2015年>

2月「デザイントリプレックス 11」

・シンポジウム | 日本の空間デザイン展

2月「北陸デザインフォーラム」

- ・シンポジウム | 日本の空間デザイン展

③その他関連事業

中部デザイン団体協議会 (CCDO) ナイトトーク

名古屋商工会議所+中部デザイン団体協議会 (CCDO) デザインなんでも相談

●無料相談 (商環境デザイン担当)

●「メッセナゴヤ」(11月) 名商+CCDO デザイン何でも相談「それはデザイナーに聞け」

・4日間を通して会場で無料相談

関西支部 (支部長: 長町志穂)

■ 26年度 of 取組みにあたって

- ・「JCD 関西の見える化」「デザインによる社会貢献」を2大柱とする活動の実施
- ・JCD 本部企画のエリア浸透 および関西他デザイン団体との連携 加速
- ・会員と賛助企業メリットの見える化

■ 活動内容 (案)

1. 社会貢献による「見える化」事業の実施

■ SODA 事業「子供たちとのワークショップ 2014」(8/23)

■ 公共イベントへの参画 (水都大阪 2014 等 10 月頃予定)

子供たちへのデザインワークショップや地域活性化イベントでのワークショップへ団体として参画し会員のデザインスキルと賛助企業の材料支給による団体力を活かした社会的活動を実施。賛助企業をスポンサー表記するなど、賛助企業メリットも強化する。

2. 他団体共催事業を利用した支部活性化と懇親

■ JCD 関西主導によるデザインイベントの企画・実施

■ 関西学生シンポジウム (秋)

■ 日本の空間デザイン展 (冬) + トークイベント

■ 大阪デザインサロンへの積極参加

定例化しているイベントをさらに発展させ利用し、その機会を利用した会員懇親をはかる。

3. 情報発信の強化 (Facebook, HP, JCD 関西誌)

Facebook: コンテンツの充実をはかる、発信頻度のアップ

Home Page: 会員情報ページの新設、企業リンクの充実

JCD 関西誌: 年間活動の集積としての年1回発刊を目指す

4. 懇親イベントの実施

ビアパーティおよび新年会の実施、若手の委員長起用による活性化 (上記イベントとの連携もはかる)

■ 組織（案）

- ・ SODA 委員会（子供WS） 8/23
- ・ 見える化活動委員会（公共イベント、WS実施） 10月
- ・ 共催イベント委員会（共催イベントの推進） 10月、2月
- ・ 情報発信委員会（Facebook コンテンツの充実・運用、HPの充実、機関誌発刊）
- ・ 交流委員会（懇親会の企画運営） 8/23、1月、その他適時
- ・ 賛助委員会（賛助企業の取りまとめ）

中国支部（支部長：深田勝哉）

26年度の中国支部の活動方針、「地域に必要とされるデザイン」をテーマに一年間活動する予定です。従来の組織を見直し、会員が活動しやすい環境を作り、できるだけ多くの会員が参加できるようにしたいと考えています。中心となっている広島、岡山だけでなく中国5県全件での活動、各地域とのかかわりの中でJCDの立ち位置を明確にし、地域にとってなくてはならない団体としてあり続けたいと考えています。そして、会員相互のコミュニケーション、また若い新会員を増やし、新しい組織として活気ある支部創りを目標にしています。

■ 26年度活動内容

組織改革

- 今まで活動の中心となっている会員と、次の世代を担っていく若い会員で新たな組織を作り、若い会員が活動しやすい環境づくりを目指した組織を、再構築したいと考えています。
- 地域活動
今まで岡山、広島で続けてきているデザインイベント、現在は「広島デザインデイズ」として4回を数えます。広島を中心とするデザイン団体、建築・デザイン系の大学、専門学校、地元商店連合会など参加者も増え、今後はさらに地域とのコミュニケーションを図りながら広島に根付いたデザイン活動として進めたいと考えます。
- 例会活動
今までの例会では、本部からの連絡事項、支部内の審議事項、活動予定打ち合わせなど、必要最小限の内容でした。これからは、毎回新しいプログラムを検討しデザインを中心としたスタディーセッションをしたいと思っています。デザインの考え方をぶつけ合う場として盛り上げればと考えています。
- 親睦活動
中国支部内での会員相互の親睦を目的とし、イベントの計画をします。
通年行事 例会後、各地での懇親会
夏 デザインキャンプの計画。
冬 デザイナー交流会「鍋塾」の計画。
※ 他支部との交流活動。
※ デザインツアー、国内外を問わず新しいデザインに触れる旅を計画します。
- 活動予定

- 4月 ※ JCD中国支部総会 26年度事業計画発表、委員会編成
- 5月 ※ 第一回 2014年 広島デザインウイーク準備委員会
第二回 2014年 広島デザインウイーク準備委員会
- 6月 ※ 26年度定時総会
※ 第二回 JCD中国支部例会
- 7月 ※ 第三回 2014年 広島デザインウイーク準備委員会
- 8月 ※ 第四回 2014年 広島デザインウイーク準備委員会
※ 第三回 JCD中国支部例会
※ 第五回 2014年 広島デザインウイーク準備委員会
- 9月 ※ 中国支部 デザインキャンプ
- 10月 ※ 第六回 2014年 広島デザインウイーク準備委員会
第四回 JCD中国支部例会
- 12月 ※ 2014年 広島デザインウイーク 3日間
第五回 JCD中国支部例会
- 1月 ※ JCD中国支部大忘年会&クリスマスパーティー
- 2月 ※ 中国支部 デザイナー交流会「鍋塾」開催 瀬戸内の島
- 3月 ※ 第六回 JCD中国支部例会

四国支部（支部長：香川眞二）

■活動内容

	四国支部	担当委員会	他団体との交流	JCD 本部
4月	4/5（土）例会、花見懇談会 会員レポート	運営委員会		
5月	委員長会（5月中旬） H27年度四国総会準備実行委員会			5/31(土) 平成26年定時総会参加
6月	6/21(土)例会 ミラノサローネレポート 会員レポート	運営委員会 交流委員会	他団体との交流会 予定（SDA 検討中）	
7月	7/20(日)委員長会 H27年度四国総会準備実行委員会		香川県デザイン協会 合同研修(検討中)	

8月	例会 松山市内において愛媛会員との交流例会 会員レポート	運営委員会 交流委員会	他団体との交流会 予定 (SDA 検討中)	
9月	委員長会 H27 年度四国総会準備実行委員会	運営委員会	9/20(土)・21(日) 瀬戸内生活工芸祭 2014 後援	
10月	例会 他支部との合同例会 海外研修予定(検討中) 会員レポート	運営委員会		
11月	委員長会 H27 年度四国総会準備実行委員会		香川県デザイン協会 合同研修(検討中)	
12月	12/13(土)例会(忘年会) LED セミナー 会員レポート	運営委員会		
1月	委員長会 (新年会) H27 年度四国総会準備実行委員会		専門学校 穴吹デザインカレッジ 2015 年デザイン展 後援	
2月	例会 鍋塾 会員レポート	運営委員会		
3月	委員長会 H27 年度四国総会準備実行委員会 松山にてデザインアワード展示 (検討中)			

- ・ 現会員のレベルアップ及び新規会員の増員
- ・ SODA 【芸術士のいる保育所】に参加検討中

○香川支部長より、平成 27 年度総会開催は四国支部主催であるため、平成 26 年度はその準備を余念なく懸命に進める旨の力強い言葉があった。

九州支部長（支部長：金子洋伸）

- 4月 月例会
- 5月 FDL 理事会及び総会参加
- 6月 支部総会
- 8月 デザインスクールキャラバン委員会
- 10月 デザインスクールキャラバン実施
- 10月 有田陶芸教室開催
- 11月 JCD デザインアワード展 2014（SDA 賞展と合同開催）
- 12月 福岡デザイン界大望年会
- 12月 九州支部忘年会
- 1月 九州支部新年会

九州支部は新支部長の元、次世代の JCD 活動に向けスタートします。

NPO 法人 FUKUOKA デザインリーグへの参加は続けながら、社会貢献、会員間交流、勉強会の新しい形を模索してまいります。

また、会員増強も早急に対応しなければならない課題であり、これまで以上に魅力ある JCD 九州支部を作り上げねばなりません。

そこで、今年度の月例会は「魅力ある JCD 九州支部」をテーマに会議を重ねてまいります。その為には九州支部会員の自覚と九州支部賛助委員会の協力も不可欠だと考えます。

これまで以上に新生 JCD 九州支部へのご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

沖縄支部長（支部長：平良玄峰）

支部発足から 2 年目となり、ようやく支部メンバーにも活動の動きが積極的に感じられるようになりましたので、今年度も引き続き沖縄での JCD の認知度を上げれるようにイベントを通して活動していく次第です。

1：SODA ワークショップの継続

毎年、行っている SODA の活動を今年から年に 2 校に増やしていけるように教育機関に再アプローチを図る。

2：夕涼み会開催

昨年度、行われた交流会主体の夕涼み会で賛助会員拡大を図ったイベントを行い、支部賛助会員ではありますが、2 社の申し込みを頂きましたので、前年度に引き続き、今年度も夕涼み会で新たな会員・賛助会員拡大を図る。

3：異業種交流会

前年度に予算の問題で出来なかったペチャクチャナイトにての異業種交流会、ゲストのデザイナーを招いてのトークショーで異業種交流会を行い、JCD の認知度を上げる。

4：ホームページ・SNSの活用

前年度の活動として出来なかったホームページですが、気軽な Facebook からスタートして更新頻度を上げれるように重点を置きます。

5：沖縄支部忘年会

これまで会員だけの忘年会でしたが、今年度から夕涼み会同様に新たな会員・賛助会員拡大を図る為、同業他社やメーカー等も合同の忘年会にて交流を深める。

3. その他の会務に関する件

(1) 功労賞表彰

平成 26 年度功労賞を以下の方に贈呈することを決定した。

特別功労賞受賞者

金子 洋伸 会員

支部功労賞受賞者

該当者不在

(2) 関係機関や団体との交流、その他の事業へ後援や協賛など

公益社団法人商業施設技術者・団体連合会や空間デザイン機構への運営参加、新規事業及び継続して行われる各事業の後援、協賛を通し積極的かつ実のある活動を目指す。